

一 青天の霹靂 一

上司に教育実習のことを話した数日後、たしか5月末だったと思います。
例の恩師から電話がかかってきました。📞

ふな:(あれ、なんだろう?何かやらかしたっけ?)もしもし……

先生:お前、教員になりたいんだよな!?

ふな:はい。その為にこれから実習に行くわけですから。

先生:7月からうちの学校で教員をやれ!

ふな:へへ???

先生:国語科で産休が出るから非常勤講師をやれ!

ふな:だって……免許を取るための単位はすべて取りましたが、実習に行っていないので、まだ免許の申請が出せませんよ。

先生:臨時免許を申請する。お前は大学も出ているし、免許を取る最終段階まできている。申請は通るはずだ。

ふな:……………

先生:考えて、早急に返事をくれ。じゃ!

年度契約の非常勤講師ではありますが、突然教員になれるチャンスが舞い込んできたのです。

非常勤講師とは、受け持っている授業だけをこなせばよいというもの。

その他の学校における仕事は一切ありません。

しかも、時間給なんです。1時限実施していくら、と言う給料体系です。

果たしてそれでやっていけるのか……

迷いました。

会社では朝から深夜まで仕事をし、自分の時間は全くありませんでしたが給料は同年代の誰にも負けないくらいもらっていました。

それが、夢と引き替えにいろいろなものを失わなければいけないのです。

さあ、どうする!?

悩みました。

しかし、この時点で悩みながらも答えは決まっていたのです。

そう、会社を辞めて非常勤講師になると。

ただ、会社を辞める勇気がなかなか出なかったのです。

その理由は、

- ①契約期間が切れたらどうなるのか。
- ②講師をやっている間に採用試験に受かるか。
- ③給料は少ないがやっていけるのか。

です。

これに対して出した答えは、

- ①恩師に任せる。
- ②採用試験に受かるように勉強する。
- ③貯金を取り崩してやっていく。

そうと決まればあとは辞表を書いて📄提出するのみ！

7月1日付けで👤着任のため、6月末で退職です。

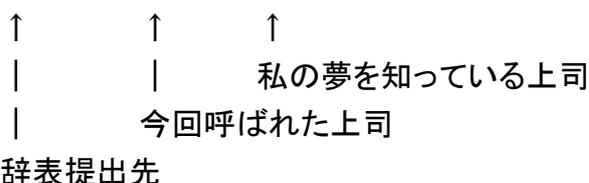
会社を辞める場合、退職の1ヶ月前までには辞表を出さなければいけません。

急がないと間に合いません。辞表は書いたことなど無いので、まずは書き方を調べました。詳しいことはここでは触れませんが、日本の文化を象徴しているような書き方なんですね。ちょっと驚きました。

辞表の書き方に従って辞表を書きました。あとはいつ提出するか。できるだけ早いほうが良いな、と思いつつ、課長の機嫌をうかがいつつ、タイミングを見計らっていました。そんなとき、別の上司(技術主幹)から呼ばれました。(下図参照)

【私の所属していた部署の組織図】

部長－課長－技術主幹－主任－私



上司: 船田君、新しいプロジェクトがあるんだ。

ふな: はあ…

上司: 船田君にこのプロジェクトを任せたいんだ。

ふな: 🙄

上司: やってくれるよね。

ふな: ……実は、退職を考えているんです。

上司: 🙄

ふな: すみませんがお断りさせていただきます。

なんという悪いタイミング…

会社に居続けるのであれば、大きなチャンス到来です。

そんなチャンスが今まで皆無に等しく、チャンスを与えて欲しいと、毎年課長には訴えてきていました。そのチャンスがやっと巡ってきたにもかかわらず、その時に私は退職を決意してしまっていました。

なんという皮肉な運命。

でも、今自分は夢にまっしぐらです。退職するしかないのです。

そんな時、工場勤務の若い社員に呼ばれました。

🏭工場の若い社員は私が辞表を提出したことを知っていました。

辞表は新しい仕事の話が来た直後に、これはまずいと言うことですぐに課長に出しました。
その時のやりとりをちょっと…

ふな: (辞表を出しながら)退職させていただきます。

課長: 🍷 辞めてどうするんだ？

ふな: 高校の教師になります。

課長: 🍷 なんの先生になるんだ？

ふな: 国語です。

課長: 🍷

退職で驚き、教員で驚き、国語で驚き…

皆同じ反応をするんですね🍷

もったもなこともかもしれませんが…

話を戻してー

私のいた会社は開発と工場がどこかで敵対しているような、ぎくしゃくした部分がありました。
その中で、私は開発と工場が疎遠にならないように、入社以来努めてきたつもりです。

私は開発業務の他に、工場現場の生の声を聞き、問題を会社に打ち上げる、という仕事もしていました。

全力で頑張っていたつもりです。

そんな私が退職する。これからの現場はどうなるのだ!🍷ということでした。

悩みました。

開発業務は後任者に引き継ぎをして概ね解決していました。

しかし、こちらは…

退職を決めたときから引っかかっていたことではありましたが、いざこうなると、果たして会社を辞めて良いものか、分からなくなってきました。

そんな時、ある先輩に言われた一言。

「現場のやつらの話を聞くおまえの代わりは絶対にいる。でも、おまえの夢はおまえにしか実現できないんだ」

涙が出ました。決心できました。🍷

工場に行き、可能な限り声をかけ、謝りました。

うれしいことに私の退職を惜しんでくれる方がたくさんいました。

「自分のやってきたこと、間違っていなかったんだな…」

そう実感しました。申し訳ない気持ちと、感謝の気持ちでいっぱいになりました。

余談ですが、今でも工場の新入社員歓迎会🎉や忘年会🎉には声をかけていただいています。
そして可能な限り参加させていただいています。🙏

こうして本当に退職することになりました。
(退職の日の朝、所属部長と大げんかをしました👊)

退職をし、たくさんものを失います。
安定した職業、安定した収入、今までの贅沢な生活・・・

これからは非常勤講師。世間ではアルバイトと同じ扱いです。
社会保険もありません。
とにかく贅沢は敵👊です。

まずは、2台もっていた大好きなスーパースポーツ🏍️を1台手放しました。
次にマンション10階🏢から家賃半額のアパート1階へ引っ越しました。
非常勤講師だけでは生活ができないので、アルバイトで予備校・塾の講師の募集を探しました。
外食🍴をしなくて自炊🍳するようになりました。

自分でも驚きましたが、人間変わろうと思えば変われるものなんです。
会社に勤めていたときは、絶対に生活水準は落としたい❗
と思っていたのですが、夢の力は大きいです。
全てを捨てて夢の実現に向けて突っ走りました。

今思えば、すごいことをしたな・・・と思います。
完全に勢いですね。
もう、こんなリスクなことはできません。(笑)
でも、この時の勢いがなかったら、私の夢は夢で終わってしまったでしょう。

こうして私の教師生活が始まりました。